

【 魅力ある北海道競馬について 】

(1) これまでの改革について

魅力あるホッカイドウ競馬について伺います。

先日、近代的な場外発売所『Aiba 札幌駅前』と『門別競馬場』を拝見する機会を得ました。

ホッカイドウ競馬は、競馬法改正により昭和23年度から競馬開催が始まり、多くの道民が詰めかけたとされ、開始から44年間で、約290億円を一般会計に繰り出してきました。しかし、バブル景気の崩壊から平成4年度以降、連続した赤字経営が続きましたが、平成25年度以降、連続で単年度黒字を確保し、本年度も計画額を上回る発売額を得ているとお聞きしています。

これは、門別競馬場へのナイトー競馬の一元化等、長年にわたる改革の取組や馬産地を含めた関係者の努力の成果と考えますが、一方『ホッカイドウ競馬』については、『存廃の議論が高まり』、道議会においても同僚議員からの様々な質疑があったことも承知しています。

私の地元、帯広市においても、『ばんえい競馬』を開催していますが、北海道開拓時代の農耕馬が現代のレースへと受け継がれ、『北海道遺産』として人々に感動を与えておりますが、ホッカイドウ競馬と同様にバブル崩壊後に連続した赤字経営の厳しい時代などを乗り越えて現在に至っております。

平成 19 年度に策定された『北海道競馬改革ビジョン』を契機に、ホッカイドウ競馬の位置づけを認識しながら、これまで、どのような改革を進めてきたのか、今後の決意も含めて伺います。

(答弁：鈴木知事)

- ・ホッカイドウ競馬は、国内唯一の産地競馬として地域の雇用や経済の活性化に寄与している。
- ・全国へ競走馬を供給する重要な役割
- ・競馬事業は、平成 4 年度以降、大幅な赤字経営
- ・競馬事業を安定的に続けていくため、平成 19 年度に『北海道競馬改革ビジョン』を策定し、門別競馬場への一元化とナイター化、場外発売所の新設やインターネット発売に取り組む。
- ・23 年度には、『北海道競馬推進プラン』を策定し、JRA との相互発売などによる収支改善、調教用の坂道の整備による強い馬づくりなどに取り組む。
- ・25 年度からは単年度収支が黒字、競馬事業の一層の安定、馬産地の持続的な発展に努めてまいる考え。

(2) 公正の確保について

次に公正の確保について伺います。

公営ギャンブルと言われる競馬事業を開催する上で、忘れてならないのが公正の確保であります。

競走馬への禁止薬物投与は勿論のこと、競馬法第 29 条でも定められていますが、『ホッカイドウ競馬』においては、主催者である『知事』をはじめ、関係している道職員や、騎手、調教師、きゅう務員など競馬関係者の馬券の購入は禁止されています。

帯広市で開催している『ばんえい競馬』でも、この 10 年間で『競馬関係者の馬券購入問題』や『調整ルーム内で騎手の暴力事件』などが起きております。

最近では、笠松競馬場で騎手や調教師、その親族など約 20 人が、名古屋国税局の税務調査で計 3 億円を超える所得税隠しを指摘されたことが報じられ、令和 3 年 9 月 7 日までの約 8 か月間、監督官庁である、農林水産省と総務省からの指導助言を受け、再発防止に向けた対策が承認されるまでの、8 か月間はレース開催が出来ず、売上収入が無くなり、施設の維持管理費のほか、競馬関係者への最低限の保証など、大きな問題になっております。

先日、門別競馬場に赴き、公正確保のために競馬開催日の前日から騎手が入居する『調整所』も見させていただきました。

玄関から入ると、金属探知機による手荷物検査を行い、通信機器類などをロッカーに入れ、それぞれの個室に入ることになり、浴室内には体重管理を行うためのサウナ室のほか、食堂や自動販売機などが備わってありました。

『ばんえい競馬』での騎手による暴力事件は、誰もが想定していないことが起きたことから、現在、規則を改正し、調整ルーム内に酒類の持ち込みを禁止しています。

今回、平成 22 年 3 月 18 日に一部改正された『北海道地方競馬騎手調整所規定』を拝見しておりますが、公正確保に向けた取組については、関係者が高い意識を持ち、一丸となって取り組むことが重要と考えます。

公正確保に向けた認識と取組について伺います。

(答弁：農政部長 宮田 大)

- ・競馬事業を安定的かつ継続的に実施していくため、競走馬への禁止薬物の投与、調教師など競馬関係者による馬券購入の禁止、厳正な公平・公正な確保を通じて、ファンの皆様からの信用を確保することが重要と認識。
- ・道では、全国の競馬主催者などとの連携、調教師や騎手、きゅう務員に対する関係法令の遵守に関する研修会を開催。
- ・近年では、競馬関係者によるネットでの馬券購入のおそれ

の増加から、昨年度から新たに、関係者の馬券購入履歴をネット会社に確認する調査の実施を行っている。

- ・騎手の待機施設に金属探知機を導入し、携帯電話の持ち込みの防止、管理・監視体制の強化をおこなっている。

- ・こうした対策により、競馬事業の公平・公正の確保を徹底。

(3) 門別競馬場等への誘客について

次に、門別競馬場について伺います。

ネット上で単にギャンブルの対象として楽しんでいただくだけではなく、実際に門別競馬場や場外発売所に来て迫力あるレースを体感してもらい、ホッカイドウ競馬を広く道民の皆さんに知ってもらうことなど、競馬場などへの誘客対策も重要と考えます。

ホッカイドウ競馬での様々なイベントの一つに、企業や団体などの『企業協賛競走』と『市町村名競走』を開催していることも承知しています。

私の地元、帯広市で開催している、ばんえい競馬では、協賛レースとして、大切な結婚記念日や思い出を自ら企画し、参加型の『冠レース』にして、個人または団体など、協賛金1口1万円以上から申し込みができ、レース後には表彰式や記念撮影に参加できます。また、競馬場内にふれあい動物園を設置するなど、

家族で来場し楽しめると好評を得ています。

ホッカイドウ競馬においても、コロナ禍後を見据えての対応になると思いますが、誘客対策に関する認識を伺います。

(答弁：農政部長 宮田 大)

・競馬ファンのさらなる獲得や発売額を拡大するため、ファンの皆様に迫力あるレースを間近で体感できる門別競馬場や大型モニターで映像を見ながら馬券を購入できる場外発売所（Aiba）に来場いただくことが重要。

・門別競馬場では、ファンの皆様が快適に観戦できるよう、スタンドやパドックなどの施設を段階的に整備。

・芝生や季節の花の装飾による明るく清潔感ある環境と、地元飲食店の出店による食の楽しみを提供、馬産地の観光資源として誘客に取り組む。

・新型コロナウイルス感染症が収束した後、札幌とのシャトルバス運行や競馬場内での農畜産物の販売、場外発売所で来場者への道産食品の提供や近隣飲食店との連携など、イベントを実施するなどして、さらなる誘客に取り組む。

(4) 今後の取組について

ホッカイドウ競馬が果たしている『全国への競走馬の供給』、『軽種馬産地のセーフティーネット』という役割のほか、様々な経済活動と結びつき、雇用や地域経済に大きな波及効果をもたらしていることも承知しています。

ホッカイドウ競馬が使命を果たしながら、今後とも持続的に発展していくためには、本年3月に策定した、第3期北海道競馬推進プランで示す、『これからも競馬ファンに愛されるホッカイドウ競馬』の実現に向けて着実に取り組んでいく必要があると考えます。

同プランでは、重要課題として、人材育成と老朽化した門別競馬場の基幹施設の整備を掲げていますが、どのような競馬場として整備していくのか、方向性について伺うとともに、魅力ある競馬場づくりに向けた考え方を伺う。

(答弁：農政部長 宮田 大)

・ホッカイドウ競馬は、全国で唯一、馬産地に立脚した産地競馬場として、地域の雇用や経済に寄与している。今後とも、持続的に運営していくことが重要。

・道では、3月『第3期北海道競馬推進プラン』策定し、ファン拡大に向けた、『より魅力あるレースづくりのほか、騎手などの人材育成や老朽化した競馬場の基幹施設の再編整

備に取り組む。

- ・競馬場については、居住環境の改善と安全確保の観点から、馬のいる『きゅう舎』と関係者の住む『住居』を分けて整備。

- ・作業の効率化を図るため、パドックなどの業務施設の配置の見直し。

- ・より多くのファンの皆様に快適に競馬を見ていただくため、来場者エリアの拡大を検討。

- ・これからも、競馬ファンに愛され続けるホッカイドウ競馬を目指してまいります。